

題材法話

西本願寺の宗門校である龍谷大学は、関ヶ原の合戦の39年後（1639年）に創設された日本でも古い大学で、本年創立370周年を迎え様々な記念事業が開催されています。その一つとして先般、科学の知と人間の未来（NHK・読売新聞共催）といったテーマでシンポジウムが開催されました。パネリストは、ノーベル賞受賞者の野依良治博士、今年文化勲章を受賞された飯島澄男博士といったそうそうたる科学者に、龍谷大学の若原学長を加えた3名で、さすがに大変おもしろいお話や、意義深いお話を聞くことができました。

○中学や高校で習う化学方程式はダメ？

例えば野依博士は、「今の学校の教科書に載っている化学反応の方程式は、90%が間違っているか、駄目なんです」と仰る



忘れていませんか？もうとくに学生の間から理科の教科書で、いろいろな化学方程式を習っているかもしれません。程式のほとんどが駄目の化学方程式のほとんどが駄目です。正しいものとは信じ込んでも、育てていることに問題がある。一体どういうことなのでしようか？

ある物質とある物質が化学反応を起こして新しい物質を作り上げます。例えば、私たちが今大変重宝して使っている化学繊維のほとんどが、水と空気と石油で成り立っており、それらはすべて難しい化学方程式で表すことができ、それらを学校の教科書で習うのです。

ところが確かに、必要とする新しい物質は生まれるのですが、同時にほとんどの場合、私たちが必要としない別の物質も生じます。通常のこれをゴミと呼び、この場合も多



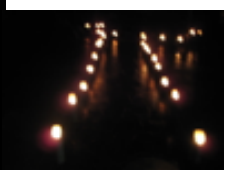
いのどころが教科書では、人間にとつて都合の良いところだけの化学反応を方程式として載せていますが、このゴミに焦点を当てることはほとんどなく、そこが駄目なところです。野依先生は仰るのです。

人間にとつて都合の良いところだけの問題がある。化学反応の理想は、無駄なゴミを出さないこと。美しく、野依先生はそこに美しさを感じ、現在そのことに最も関心があるのだそうです。

○科学技術の危うさ

このようなおもしろい話をいっぱい聞くことができましたが、けれどもやはり一番印象に残ったのは、世界的な超一流の科学者が口をそろえて「現在の科学や科学技術は非常に危険なところにある」と指摘されたことでした。

科学や科学技術を進化させ、そしてそれを人間です



が、その人間の欲望には限りがないところに危うさがある。

また、もともと科学は、ヨーロッパの思想を基本に発展してきたが、そのヨーロッパ思想はキリスト教を基盤とする人間中心主義であり、そこに非常に危険な方向に進む可能性がある。科学技術の世の中で、豊かさや便利さは大きく進んで、私達は喜びにどっぷりつかってききました。

けれどもここに来て、なにか大きな間違いを犯しているのではないか。なにか大切なものを失いかけているのではないか。そんな不安を感じあっているのがお互いではないかというのです。

○今私達に必要なこと

このような事実を正面から向き合って、今私達に必要なことは何なのでしょう。二人の世界的大科学者と、浄土真宗を建学の精神とする龍谷大学の学長が語り合ったのでした。以下次